

春先の機械作業時は過信せず、安全確認を十分に！

苗の品種区別をしっかりと行いましょう！

【育苗管理】

	温度管理	ハウス管理	水管理
緑化期	《日中》 20～25℃ 《夜間》 15～20℃ <small>（夜間の温度を高くすること。）</small>	【ハウス搬入後 3～4日】 緑化終了の目安は、芽が地際から2.5cm程度伸長した時期とする。 ・遮光や保温のためラブリシートや寒冷紗で被覆する。 ・ 夜間は被覆資材の二重掛け等により保温に努める。 ・高温にならないよう晴天時は換気に努める。 ・日中に換気のためハウスを開けた場合、夜温確保のため夕方3時頃までに閉めること。 ・ ゆめみづほは2日程度被覆期間を長くする。	・緑化期間中の灌水は、 覆土の持ち上がりがある場合と箱のシミが白く乾いた時 だけとし、過湿に注意する。 ・灌水が必要な場合は晴天の早朝とし、低温時や夕方には行わない。
葉ヤケに注意（ハウスのビニールを新しくした場合は特に注意）			
硬化前期	《日中》 20℃前後 《夜間》 10℃以上	【ハウス搬入後 5～9日】 ・高温にならないよう、ハウスの開閉はこまめに行う。 ・日中は、被覆資材は使用しないこと。 ・夜間及び低温時は被覆資材等で保温する。	・灌水は午前10時頃までに行う。 ・曇雨天時は土の乾き具合を見て判断すること。
硬化中期	《日中》 15～20℃ 《夜間》 10℃以上	【ハウス搬入後 10～15日】 ・温度管理は低めとし、徐々に外気温にならす。 ・霜等に注意し、低温時は被覆資材で保温する。	・灌水は朝方、ゆっくり時間をかけてムラにならないよう行う。（灌水ムラは生育ムラの原因になります。） ・ハウスの換気により、床土が乾きやすいため、晴天の日は朝昼2回の灌水が必要な場合があるので注意する。
硬化後期	外気温にならす	【田植え前 8～10日】 ・日中はハウスのビニールを大きくめくり、温度が上がりすぎる時はハウスの腰部も開ける。 ・田植え4～5日前からは夜間も換気する。 ・霜に注意し、極端に冷え込む日は日中早めにハウスを閉め、場合によっては被覆する。	・育苗期間が30日を超える場合や葉色が薄い場合には、田植え3日前に追肥を行う。 【追肥法】 液肥2号の200倍液（水10ℓに50ml）を1箱当たり500ml灌注し葉焼け防止のため軽く灌水する。

【カビ及び病害対策】

カビの種類	薬剤名	使用時期	処理方法
青カビ・白カビ	ダコレート水和剤	播種時から緑化期 但し播種14日後まで	500倍液（水10ℓに20g）を1箱当たり500ml灌注する。 総使用回数：2回以内
赤カビ	タチガレエース液剤	発芽後	500倍液（水10ℓに20ml）を1箱当たり500ml灌注する。 総使用回数：1回以内

※ムレ苗の発生：早急にタチガレエース液剤を灌注し、葉からの蒸散を抑えるために寒冷紗で遮光する。

**良質米は
『土づくり肥料』の施用から!!**

基肥一発肥料を使用する場合は、水稻の生育に不可欠な**リン酸・加里が不足**しますので、**土づくりや中間追肥を必ず施用**しましょう。

土づくりにより、品質、食味の向上と収量の安定化に努めましょう!!

